



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

小さな社会貢献のススメ

「歩いていて路上にゴミを見つけたら、どうしていますか？」と聞かれて、「拾うようにしています」と迷わず答えられる人は、多分このコラムを読んでいただくには及ばないと思います。しかし、多くの人は、他の人が気づくのではと通り過ぎてしまったり、照れくささや躊躇があって表立って良いと思うことができなかつたりする経験をお持ちではないでしょうか。落ちているゴミを拾うことは、簡単なようで実は難しい。それなのに拾うことができなかつたときは、それがちょっとした罪悪感として心に残ってしまうことがあります。

そんなときは、こんな考え方をしてみてもどうでしょうか。「無理は禁物」「できないときはできないで良い」「できる人ができるときに」。こう決めると、心は随分軽くなります。私も通勤中などに、道で動物がはねられていたり、亀が歩いたりするのを見つけたら、とりあえず道端まで寄せて、必要なら道路管理者に連絡しますが、そのときの都合でやむを得ず通過することもあります。

「淡路全島一斉清掃」は、訪れる人々に美しいまちや自然とふれあっていただきたいとの願いからスタートして30年以上が経過しました。大変すばらしい取り組みだと思えます。それに加え、一人ひとりが気づいたところを少しきれいにすれ

ば、まち全体がとても美しくなるのではないのでしょうか。「私たち一人ひとりが、自分の玄関の前を掃除するだけで、全世界はきれいになるでしょう」。マザー・テレサの言葉です。私は、これは掃除に限らず身近な物事に少しずつ愛を注ぐことができれば世界は変わるという意味だと考えています。南あわじ市では地域の助け合いやボランティア活動が活発です。それがもっと広がり、お互いに顔の見える間柄になることが、さらに安心して暮らせるまちにつながります。もし、気づいたときだけでなく、手伝ってほしい人の依頼に応えたいという心強いお申し出をいただける場合は、南あわじ市社会福祉協議会ボランティアセンターや、本市の生涯活躍推進室で実施しているおもしろポイント制度（60歳以上が対象）にぜひご登録ください。お手伝いなどを必要とする人や団体を紹介することができます。

「ボランティアは少し敷居の高いもの」ではなく、できることをできるときに楽しみながら、気がついたときにずっとできる、もう少し敷居の低いものになれば…。皆さまとそんな地域づくりができればと考えています。

最後に、新型コロナウイルスの感染が急拡大しています。今一度、ご自身の体調を確認いただき、発熱や倦怠感があつた場合は、軽度であっても外出を控え、人との接触は避けてください。特に、高齢者をはじめ、重症化リスクの高い方と会う機会がある場合には注意していただくなど、感染予防にご協力をお願いいたします。

感染症対策にご協力をお願いします

- ・3密を避け、人と接する場合はマスクを着用する
- ・手洗いや手指の消毒を励行する
- ・室内や移動の車内などでは換気を十分に行う

吉備国際大学からのお知らせ

◆さなぶり祭で学生交流

6月25日、さなぶり祭を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響から、学生間で交流するイベントはここ数年開催が難しい状況でしたが、3年ぶりのイベントに学年を問わず、たくさんの学生が参加してくれました。自らの手で行う田植えは根気のいる作業でしたが、力を合わせ同じ目標に向かうことでお互いの距離が近づき、学生生活の思い出の1つになったと感じています。恒例行事の泥相撲大会では、参加学生は全員、泥まみれになりながらも、楽しい取り組みとなりました。今年度は11月に、くにうみ祭（文化祭）の



開催を予定しています。学内のみに関わらず、南あわじ市民の皆さまも楽しめるような実りのあるイベントにしていけたらと思います。

◆オープンキャンパスのお知らせ

日時 8月7日（日）、8月28日（日）

13:00～15:30

場所 吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

内容 学科紹介、ミニ講義、個別相談など

申込・問合せ（要予約）

同大学ホームページからの申込みもしくは電話予約
（入試広報室フリーダイヤル ☎ 0120-25-9944）

※メールアドレスをお持ちでない人は電話にてお申込みください



啓発活動を行った市推進委員会のメンバーと園児ら

「社会を明るくする運動」南あわじ市推進委員会が7月9日、ショッピングセンター・シーパで同運動の啓発イベントを行いました。同運動は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人の更生について理解を深め、安全・安心な地域社会を築くことを目的としています。毎年7月は強調月間となつ

ており、全国的に啓発活動が展開されています。イベントでは、南あわじ市保護司会の瀬尾弘澄会長から市推進委員長の守本市長に、内閣総理大臣のメッセージが伝達されました。また、警察官の制服を着た志知保育所の園児11人が、買い物に訪れた人に啓発グッズを配布しました。

社会を明るくする運動
犯罪のない社会をめざして



海底に土砂を投入する作業船

市では、三原川河口沿岸域において、海底環境の改善と海の栄養を増やすことを目的とした事業を進めています。海底では、土砂や栄養塩（窒素・リン・ケイ素）が不足し、土が固い粘土状になつています。魚介類にとっては住みにくい環境で、水産業にも影響を与えています。下水道の高度処理やダ

ムによる養分のせき止めが一因と見られます。6月20日と21日には松帆慶野沖で、河川から掘り取つた土砂を投入する工事を実施。約45㌔四方の海底を、厚さ約50㌔の土砂で覆いました。また、海水をかき混ぜる機能を持つブロックを海底に設置する工事なども行つています。これらの工事により豊かな漁場が戻り、アジやタイ、ヒラメなどの水産物の漁獲量の向上が期待されています。

豊かな海を取り戻すために
海底に河川の土砂を投入

そうめんびらきで
地場産業をPR



（上）自分たちで考えたそうめんメニューを作る三原中の生徒ら（右）披露された流しそうめん

7月3日、ショッピングセンター・シーパで、「淡路手延べそうめんびらき」が開催されました。全国乾麺協同組合連合会が定めた7月7日の「そうめんの日」に先駆けて、淡路手延素麺協同組合が主催し、淡路手延素麺をPRしました。イベントは、三原中学校の生徒3人が、トライヤルウィークで地場産業の淡路手延素麺について学び、良さをもちと広く知ってもらいたいと思ったことから初めて開催。流しそうめんを披露したり、三原中の生徒ら

が自分たちで考えたメニューの「冷やし中華風そうめん」を作つて、紹介したりしました。参加した富貴飛翔さん（三原中2年）は「淡路手延素麺が他の都道府県の人にも届いてほしい」と話していました。淡路手延素麺協同組合の金山守良理事長は「淡路のそうめんは細くてコシがありおいしい。地元の人にはぜひ食べてもらい、島外の人にもどんどん紹介してほしい」と、夏のそうめんシーズンに向けての期待を込めていました。